

令和3年度  
第2回みと好文カレッジ運営審議会

日 時 令和4年2月28日(月)  
午前10時00分～  
場 所 水戸市総合教育研究所  
2階 研究室5・6

みと好文カレッジ

## 【次 第】

### 1 開 会

### 2 委員長あいさつ

### 3 議 題

- (1) 令和3年度みと好文カレッジ事業実施報告について
- (2) 令和4年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標について
- (3) 令和4年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策（案）について
- (4) その他

### 4 閉会

(1) 令和3年度みと好文カレッジ事業実施報告について

1 市民センターへの支援・指導

(1) 東湖塾の開催

ア 新任職員研修

(ア) 集合研修

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
4月14日(水)	市民センターについて、生涯学習の推進についてほか	市民生活課職員、みと好文カレッジ職員ほか	新任所長及び新任会計年度任用職員 9人	新任所長及び新任会計年度任用職員 23人

(イ) 訪問研修

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
前期5月～7月 後期10月～12月	市民センターにおける生涯学習事業の推進方策等について	みと好文カレッジ職員	新任所長及び新任会計年度任用職員 前期6回 6人 後期3回 4人	新任所長及び新任会計年度任用職員 前期11回 14人 後期11回 13人

イ 全体研修

(ア) 集合研修

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
9月2日(木)	①現代的課題について ②水戸生涯学習センターの事業について  ※講師がZoomによりリモートで講義を行うオンライン研修	①茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 社会教育主事 國府田 大 ②茨城県水戸生涯学習センター 次長兼企画振興課長 熊谷 智仁	所長 31人	未実施
令和4年 3月16日(水)  [予定]	人が集まる講座とチラシの作り方について  ※講師がZoomによりリモートで講義を行うオンライン研修	NPO法人 男女共同参画おおた理事長 坂田 静香	市民センター 会計年度任用職員 34人	—

(イ) ブロック研修（意見交流会）

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
8月24日（火）	（西部ブロック） 定期講座の充実や募集方法について，移動学習の企画・立案方法や引率における安全確保について	みと好文カレッジ職員	西部ブロック 会計年度任用職員 7人	南部ブロック 会計年度任用職員 7人
9月21日（火）	（中央ブロック） 定期講座の充実や募集方法について，移動学習の企画・立案方法や引率における安全確保について		中央ブロック 会計年度任用職員 5人	内原ブロック 会計年度任用職員 6人

(ウ) 訪問研修

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
前期5月～7月 後期10月～12月	市民センターにおける生涯学習事業の推進方策等について	みと好文カレッジ職員	所長及び社会 教育事業担当者 前期29回 36人 後期31回 38人	所長及び社会 教育事業担当者 前期23回 29人 後期25回 31人

ウ 学習プログラム作成研修（ブロック研修）

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①6月8日（火） ②6月22日（火） ③7月26日（月） ④8月27日（金）	（内原ブロック） 現代的課題や地域課題の見出し方や課題解決のための学習プログラム作成に関する知識や技術を習得する	みと好文カレッジ職員	内原ブロック 会計年度任用職員 3人	中央ブロック 会計年度任用職員 5人

<東湖塾の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
30千円 （報償費）	30千円	・生涯学習推進基本計画 令和5年度訪問研修実施数 目標値 70件 ・事業実施目的達成度	A
<p><b>評価・課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問研修は全34市民センターに前期後期各1回 計69回実施し，各市民センターの実情に応じたアドバイスを行った。みと好文カレッジ職員の往復時間も含めると1回あたりの所要時間が長く，他の業務を圧迫する。次年度以降，目標値にとらわれず，訪問研修以外の効果的な研修も検討していく。</li> <li>・集合研修にオンライン形式を取り入れ，コロナ禍においても実施することができた。</li> <li>・学習プログラム作成研修について，講座企画から実施までの手法を学ぶ研修としては有益だったが，企画内容が過去にみと好文カレッジや市民センターで実施したことがあるようなものになってしまった。</li> </ul>			

## (2) 好文塾の開催

### ア ブロック単位

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①11月16日(火) ②11月29日(月) ③12月9日(木) ④12月21日(火)	<p>(内原ブロック)</p> <p>幅広い年代を想定し、身近な講座を開催することで、地域で育つ子どもたちの環境がより良い状態となるよう学習する</p> <p>「地域で育つ子どもたちへ」</p> <p>①親子でリズム&amp;初めての保育園・幼稚園</p> <p>②朝ごはんから笑顔あふれる食卓へ</p> <p>③子どもとメディアとの関わり方</p> <p>④幸せ孫育て</p>	<p>①乳幼児学級タンポポ 加藤木 久子</p> <p>②水戸市食生活改善推進員</p> <p>③茨城県メディア教育指導員 川野邊 洋美</p> <p>④NPO法人 子連れスタイル推進協会 中田 千恵</p>	<p>市内在住又は通勤・通学する方 (①は1～3歳くらいの乳幼児と保護者)</p> <p>定員 各回 20人 (①は20組40人)</p> <p>応募者</p> <p>①17組 37人</p> <p>②8人</p> <p>③10人</p> <p>④17人</p> <p>参加者</p> <p>①16組 35人</p> <p>②6人</p> <p>③8人</p> <p>④15人</p>	<p>中央ブロック 地区役員対象 (全3回)</p> <p>対象者 15人 参加者</p> <p>①13人 ②13人 ③14人</p>

### イ 単独

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①12月10日(金) ②12月24日(金)	<p>(吉田市民センター)</p> <p>終活講座として、今から始められることや準備できることを学ぶ</p> <p>「今からはじめる これからのこと」</p> <p>①成年後見人とは</p> <p>②エンディングノートの活用術</p>	<p>南部第一高齢者支援センター長 吉田 克也</p>	<p>吉田地区住人 定員 24人 応募者 15人 参加者</p> <p>①14人 ②10人</p>	未実施

<好文塾の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
262 千円 (報償費, 賃借料等)	50 千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 か年実施計画 令和 4 年度末目標値 6 講座</li> <li>・ 事業実施目的達成度</li> <li>・ 定員に対する応募人数, 参加人数</li> <li>・ 受講者アンケート結果</li> </ul>	C
<p><b>評価・課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度実施講座 2 講座</li> </ul> <p>昨年度の学習プログラム作成研修を担当したブロック内の市民センターにおいて, 今年度の好文塾として開催を予定していたが, それぞれの市民センターの講座に組み入れたり地区の学習会に取り入れたりしたため, 好文塾としては開催しなかった。</p> <p>各市民センター主催の講座がコロナ禍において十分できていない状況で, みと好文カレッジと共催の好文塾を希望する市民センターが, 吉田市民センター以外なかった。</p> <p><b>(内原ブロック ブロック研修)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内原ブロックで募集したが, 応募が少なく, 市内全域に対象者を広げたが, 第 2 回と第 3 回は申込者が少なかった。地域で子どもを育てるという社会教育としても重要なテーマであったが, 市民の関心はあまり高くなかったようだ。</li> <li>・ 受講者アンケート結果は, 講師の話が心に響くもので良かったという声が多かった。次年度以降実施する際は, 講座形式, 広報, 開催日, 託児等の改善が必要である。</li> </ul> <p><b>(吉田市民センター)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「終活」を自身のこととして向き合うことに抵抗を感じる人が多いようで, 地区回覧及びセンター窓口でチラシを掲示したが, 申込者はあまり多くなかった。</li> </ul> <p>「終活」をテーマとした講座は, 人生 100 年時代の現代における高齢者向けの現代的課題としては重要であり, 取り組みやすい講座と組み合わせるなどして継続的に開催していきたい。</p>			

2 全市的な生涯学習の推進

(1) みと弘道館大学の開催

ア 茨城しぐさ

月日	内容	講師	参加者	令和 2 年度
申込みなし	「相互扶助」や「共生」の精神を学び, 「お互いが仲良く, 気持ちよく生活する」ための方策を考える	NPO 法人 ひと・まちねっとわーく	—	申込みなし

## イ ゼロからはじめるシニアパソコン教室

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
未実施	シニア世代にインターネットの使い方や簡単な文書作成などを体験し、ITをより身近に感じていただく	水戸女子高等学校 商業科教諭 ※商業科生徒がアシスタントとして協力	—	未実施

※水戸女子高等学校共催

## ウ 水戸市生涯学習サポーター活動の推進

人材育成講座「さきがけ塾」第6期生10人が、令和4年2月に生涯学習サポーターに登録した。現在の登録者は、第1期生から第5期生までの53人と合わせ、63人となった。

### 【生涯学習サポーター協働企画講座】

#### (ア) 親子で作って・飛ばそう♪ ウォーターロケット

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
令和4年 1月23日(日)	親子でウォーターロケット工作、ロケット飛ばしを体験し、「星と宇宙」についての講話を聴くことにより、親子関係の醸成を図るとともに、科学に興味、関心を持つことを目指す	水戸市少年自然の家 移動天文車指導員 中川 義通	市内の小学4～6年生とその保護者  定員 12組 24人 応募者 14組 28人	サポーター協働企画講座は未実施

#### (イ) 新型コロナウイルスに関する講座

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
中止	新型コロナウイルスに関する講座をオンラインで開催する	水戸市保健所職員	—	サポーター協働企画講座は未実施

#### (ウ) 虫・環境おもしろ楽習

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①12月4日(土) ②12月18日(土) 令和4年 ③1月22日(土) ④2月4日(金)	昆虫等の生物について学び、安全な環境に対する理解を深める  ①暮らしと環境を考える ②虫(ハチ)と人間 ③世界初ヒヌマイトトンボの発見 ④身近な環境問題 移動学習「清掃工場えこみっと」	①②茨城県生物多様性センターセンター長 山根 爽一 ③④茨城生物の会 会長 小菅 次男	市内在住又は通勤・通学する小学3年生以上の方(小学生は保護者同伴)  定員 30人 応募者 25人 参加者 ①20人 ②20人 ③16人	サポーター協働企画講座は未実施

(エ) 10才の若返りを目指して

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
令和4年 ①1月7日(金) ②1月14日(金) ③1月25日(火)	生活スタイル, 脳, 心から日々の若返りを目指し, 健康づくりの意識を高める  ①脳の不思議 ②withコロナ時代と心の健康 ③誰でもできる! 漢方で若返り	①茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 ②絵本カフェ「なんだかうれしい。」 店主 長谷川 鈴子 ③五藤薬局 薬剤師 上田 洋一	市内在住又は通勤・通学する方  定員 30人 応募者 50人 参加者 ①21人 ②20人 ③21人	サポーター協働企画講座は未実施

(オ) 生きのびる

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
中止	地震や台風など, 甚大な自然災害に備え防災知識を身に付けるとともに, その対処法を学ぶ  ①水戸市の防災 ②避難所とは ③非常食を作ろう ④自然災害にいかにかのびるか	①水戸市防災・危機管理課職員 ②未定 ③ボーイスカウト 荒川 友勝 ④NPO法人 茨城県防災士会 副理事長 加瀬 孝雄	市内在住又は通勤・通学する方	サポーター協働企画講座は未実施

(カ) 次世代に伝えたい あの日のこと

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①7月21日(水) ②8月5日(木)  ②は中止	戦争の紙芝居「茂木貞夫物語」を鑑賞し, 被爆体験者である茂木貞夫さんのお話を聴くことにより, 今を生きる私たちができることを考える  ①内原市民センターとの協働企画講座 ②見和市民センターとの協働企画講座	次世代に伝えたい朗読と紙芝居のオーリーブ  被爆体験者 茂木 貞夫	市内在住又は通勤・通学する方  ①定員 55人 応募者 61人 参加者 55人 ②定員 35人	サポーター企画講座は未実施



<水戸市生涯学習サポーター活動の推進 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
732 千円 (報償費等)	154 千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習推進基本計画, 2か年実施計画 令和5年度末目標値 生涯学習サポーター80人, 協働企画講座10講座</li> <li>・教育行政方針主要事業及び目標指数 生涯学習サポーター新規登録者数 10人</li> <li>・事業目的達成度</li> <li>・定員に対する応募人数, 参加人数</li> <li>・受講者へのアンケート結果</li> </ul>	C
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習サポーター 63人 (新規登録者10人)</li> <li>・協働企画講座実施数…3講座 新型コロナウイルスまん延防止等重点措置等により, 募集したが中止したもの…2講座 計画したが未実施…2講座 昨年度は全く実施できなかったが, 今年度は新型コロナウイルスの状況を見ながらの開催となった。</li> <li>・サポーターが子育て, 環境, 健康, 防災, 戦争と様々なジャンルから企画し, 親しみやすい内容の中で現代的課題を考える講座を市民に提供することができた。</li> <li>・概ね定員程度の応募があった。 「10才の若返りを目指して」は定員の約1.7倍の応募があり, 高齢者には健康というテーマの人気の高かった。</li> <li>・受講者へのアンケート結果については, いずれも高評価だった。</li> <li>・親子を対象とした体験型の講座や高齢者の受講者が多い講座は, 会場型開催ができない際にオンライン開催への切替えが難しい。年度内の代替日を設定することも難しく, 中止せざるを得なかった。ポストコロナにおいては, 会場型開催ができない際の代替案を企画の段階から立てる必要がある。</li> </ul>			

(2) 子育て応援塾の開催

ア 家庭教育講座

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
令和4年 1月30日(日)	グループディスカッションやロールプレイングなどの体験学習を通して, 親と子がお互いを大切にしながら日々を過ごすための方法を学習する	コミュニケーションインストラクター・子育てアドバイザー・心理カウンセラー 中島 由佳子	市内在住又は通勤・通学する方で子育てに関心のある16歳以上の方(子育て中の方優先)	市内在住又は通勤・通学する方で子育てに関心のある16歳以上の方(子育て中の方優先)
中止	「ありのままの自分を尊重して親も子もハッピーライフ」		定員 30人 応募者 29人	定員 30人 応募者 30人 参加者 24人

イ 家庭教育出前講座

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
申込みなし	未来の扉をひらく絵本の読み聴かせ	朗読家 見澤 淑恵	—	申込みなし
	子どもの心のケアに役立つコミュニケーション	心理カウンセラー 中島 由佳子	—	中止
	生きる力を育てる子育て10カ条	NPO法人 ひと・まちねっとわーく 事務局次長 綿引 均	—	中止

(3) 「さきがけ塾」の開催

ア 第六期「さきがけ塾」

月日	内容	講師	参加者	第五期
令和2年10月～ 令和3年12月 毎月第2・4水曜日開催	市民生活を豊かにする学習プログラムを考え、実施に向けた方法を探り、行政が主催する講座の企画・実施に参画する人材の育成を図る  理論編 22回, 実習編 4回, 実践編 4回程度	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 ほか	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民  定員 25人 応募者 18人 参加者 14人 修了者 10人	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民  定員 30人 応募者 14人 参加者 13人 修了者 13人

※今年度の詳細は別紙

イ 第七期「さきがけ塾」

月日	内容	講師	参加者	第六期
令和4年1月～ 令和5年3月 毎月第2・4水曜日開催	市民生活を豊かにする学習プログラムを考え、実施に向けた方法を探り、市民目線の講座の企画・実施に参画する人材の育成を図る  理論編 22回, 実習編 4回, 実践編 4回程度	茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 ほか	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民  定員 15人 応募者 14人 参加者 13人	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民  定員 25人 応募者 18人 参加者 14人 修了者 10人

※今年度の詳細は別紙

<「さきがけ塾」の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
622 千円 (報償費, 賃借料等)	202 千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育行政方針主要事業及び目標指数 令和 2 年度生涯学習サポーター新規登録者数 10 人</li> <li>・事業目的達成度</li> <li>・受講者アンケート結果</li> </ul>	B
<b>評価・課題</b> (第六期) <ul style="list-style-type: none"> <li>・第六期後半に主に学習プログラムづくりを行った。ブレインストーミング手法により 2 テーマを選定し、実際に学習プログラムを企画し実施したことは、塾生にとって非常に大きな自信となり、生涯学習サポーターとしての礎を築くことができた。当初参加は 14 人であったが、退会や欠席のため 10 人が修了し、水戸市生涯学習サポーターに登録した。</li> <li>・コロナ禍において活動ができない時期が何度もあり、今後は会場の見直しやオンライン開催も検討していく必要がある。</li> </ul> (第七期) <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報方法として、チラシ配布のほかに、市公式 L I N E での周知を行ったところ、6 人が L I N E を見て申し込んでおり、他の講座においても L I N E を広報手段として活用したい。</li> <li>・第七期生テーマを「持続可能な社会に向けたまちづくり・ひとづくり」とし、講師と協力しながら方向性を持った学習プログラムを作成し、生涯学習を牽引する人材を育てたい。</li> </ul>			

(4) 「さきがけ塾」塾生との協働企画講座の開催

ア 時代の魁の女性たち

月日	内容	講師	参加者	令和 2 年度
①10 月 2 日 (土) ②11 月 20 日 (土) ③11 月 28 日 (日)	時代と共に生きた 2 人の女性、徳川幹子、黒澤止幾から生き方を学ぶ  ①徳川幹子の生涯 ②黒澤止幾の生涯 ③魁の女性たち	①茨城県立歴史館 主任学芸員 武子 裕美  ②茨城県立歴史館 首席研究員 長谷川 良子  ③茨城県立歴史館 首席研究員 長谷川 良子 主任学芸員 武子 裕美	市内在住又は 通勤・通学する方  定員 20 人 応募者 53 人 参加者 ①19 人 ②16 人 ③14 人	塾生協働企画講座は中止

イ 親子がハッピーになる4つの『う』

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①9月26日(日) ②10月2日(土) ③10月16日(土) ④11月3日(水)	4つの講座での学びを通して親子の絆を深め、親子関係がより幸せになる一助とする  ①はじめよう！！おはようからの1日 ②うけとろう！！子どもからのメッセージ ③みなおそう！！スマホどっぷり生活 ④ふかめよう！！親子のきずな	①茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 絵本カフェ「なんだかうれしい。」 店主 長谷川 鈴子 ②茨城キリスト教大学非常勤講師 石田 隆雄 ③茨城県メディア教育指導員 鈴木 慶子 ④元茨城女子短期大学准教授 坂本 勝江	小学生の子を持つ保護者 (④は保護者と子ども)  定員 20人 (④は20組40人)	塾生協働企画講座は中止
中止				

ウ 親子がハッピーになる3つの『う』

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①12月26日(日) 令和4年 ②1月14日(金) から配信開始 ③2月6日(日)	3つの講座での学びを通して親子の絆を深め、親子関係がより幸せになる一助とする  ①はじめよう！！おはようからの1日 ②うけとろう！！子どもからのメッセージ ※水戸市公式YouTubeで配信 ③ふかめよう！！親子のきずな	①茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介 絵本カフェ「なんだかうれしい。」 店主 長谷川 鈴子 ②茨城キリスト教大学非常勤講師 石田 隆雄 ③元茨城女子短期大学准教授 坂本 勝江	小学生とその保護者 (②はどなたでも視聴可)  定員 30組 60人 応募者 6組 17人 参加者 ①5組 12人 再生回数 (令和4年2月14日現在) ②157回	塾生協働企画講座は中止
③は中止				

※「イ 親子がハッピーになる4つの『う』」を再計画して実施

<「さきがけ塾」塾生との協働企画講座 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
160 千円 (報償費等)	48 千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目的達成度</li> <li>・受講者アンケート</li> <li>・定員に対する応募人数, 参加人数</li> </ul>	B
<p><b>評価・課題</b></p> <p>歴史グループは4人, 子どもグループは6人でプログラム作成を行った。2グループとも新型コロナウイルスの感染状況により何回も日程調整を余儀なくされたが, 講師の助言もあり, 内容を決め, 講師依頼, チラシ作成, 当日の準備, 運営と滞ることなく実施することができ, 自分たちの企画が市民向けの講座になるプロセスを体感することができた。</p> <p>歴史グループ「時代の魁の女性たち」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動学習を入れたかったが, コロナ禍において断念することとなり, 講義のみの講座となった。女性に焦点を当てたことが注目されたのか, 定員の2.5倍以上の応募があり, 女性史という新たなテーマを開発することができた。</li> </ul> <p>子どもグループ「親子がハッピーになる3つの『う』」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に計画した講座「4つの『う』」は, 新型コロナ感染拡大のため, 中止となった。</li> <li>・再計画した講座「3つの『う』」は, 第3回が新型コロナウイルスまん延防止等重点措置により中止となったが, 第2回にさきがけ塾生協働企画講座としては初めてのYouTube 配信を取り入れたことは画期的であった。</li> <li>・小学生の親子講座として企画したが, 応募者が少なかった。家庭教育講座に子どもも含める場合, 子ども世代にとっても魅力的な内容となることを考慮しなければならない。</li> </ul>			

(5) ICT等の新しい技術を活用した講座・研修の開催

ア 市民センター所長・会計年度任用職員研修会

講師がZoomによりリモートで講義を行うオンライン研修を開催した。詳細は「1 市民センターへの支援・指導 (1) 東湖塾の開催 イ 全体研修 (ア) 集合研修」を参照。

イ セカンドライフのマネープラン講座

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
12月11日(土)	退職後の生活の変化を収入と支出の観点から考え, 資産の計画的な管理の仕方, 高齢期の人生設計の立て方について学ぶ  ※受講者は会場受講又はZoomを使用したオンライン受講を選択できるハイブリッド形式で開催	ファイナンシャルプランナー(日本FP協会認定CFP®)・国家資格キャリアコンサルタント  高村 浩子	市内在住又は通勤・通学する方  定員 会場 15人 Zoom 15人  応募者 会場 18人 Zoom 18人  参加者 会場 14人 Zoom 15人	—

## ウ はじめてのスマホ体験講座

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①11月17日(水) ②11月30日(火) ③12月17日(金) 令和4年 ④1月14日(金) ⑤1月24日(月) ⑥2月10日(木) ⑦2月15日(火)	スマートフォンの特徴や種類等の講義を受け、電話、カメラ、メール、マップ、音声アシスタント等の機能を体験しながら学ぶ  (会場) 第1弾 ①五軒市民センター ②妻里市民センター ③稲荷第一市民センター 第2弾 ④竹隈市民センター ⑤渡里市民センター ⑥双葉台市民センター ⑦見和市民センター	スマートフォンアドバイザー	市内在住又は通勤する概ね60歳以上で、スマートフォンを所有していない方やスマートフォン初心者の方  定員 各会場 15人 応募者 第1弾 合計 81人 第2弾 合計 104人 参加者 ①14人 ②15人 ③13人 ④14人 ⑤13人 ⑥13人 ⑦14人	—

## エ 「ロボスケと体を動かそう！」動画を作成

緊急事態宣言中における自粛生活による子どもたちの運動不足解消に向けて、Bリーグ男子プロバスケットボールチーム「茨城ロボッツ」に協力いただき、家の中で簡単に行える体操運動の動画を作成し、水戸市公式YouTubeで配信した。再生回数は令和4年2月14日現在2,283回。

## オ 「さきがけ塾」塾生との協働企画講座

親子の幸せを応援する全3回の講座の第2回について、講義を動画撮影し、水戸市公式YouTubeで配信する方法により開催した。詳細は「2 全市的な生涯学習の推進(4) 「さきがけ塾」塾生との協働企画講座の開催 ウ 親子がハッピーになる3つの『う』」を参照。

<ICT 等の新しい技術を活用した講座・研修の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
-	43 千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業目的達成度</li> <li>・ 受講者アンケート</li> <li>・ 定員に対する応募人数, 参加人数</li> </ul>	A
<p>・ Zoom を使用したハイブリッド形式「セカンドライフのマネープラン講座」は, 参加者の年代が 50 代から 60 代であったが, 会場とオンライン希望が同数であり, この年代でもオンライン講座が有効であることが分かった。オンラインによる気楽さを好む受講者も多くなってきたことから, 講義形式の講座においては, ハイブリッド形式で行えるように進めていきたい。</p> <p>・ 補完的講座として YouTube 動画配信を取り入れることは効果的であるが, 今年度は動画の撮影から編集まで他課の協力により行った。みと好文カレッジ職員で行える技能の習得に向けては, 努力を要する。</p> <p>・ デジタルディバイド解消に向けた「はじめてのスマホ体験講座」は, 定員に対し, 第 1 弾は 1.8 倍, 第 2 弾は 1.7 倍と市民の関心が高いので, 来年度は市民センター事業として各地区において開催できるよう調整していく。</p>			

(6) 「ほっとひといき夢らんど」の開催

ア ほっとひといき夢らんど

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①5月21日(金)	1歳半から2歳半未満までの未就園児とその保護者を対象に、様々な講座を実施することで、子育て中の親同士が出会い、情報交換の場を作り、楽しみながら子育てできるよう支援する	①リトミック講師 海野 真奈美	市内在住 1歳半～2歳半未満の未就園児と保護者	市内在住 1歳半～4歳未満の未就園児と保護者対象 (各コース全4回)
②6月18日(金)		②キッズヨガインストラクター 子安 美穂	定員 15組 30人	(Aコース) 定員 15組 30人
③7月16日(金)		③ほっとひといき夢らんど専属ボランティア ピアノ講師 井上 文代	応募者 23組 46人	定員 15組 30人
④10月15日(金)		④ほっとひといき夢らんど専属ボランティア ピアノ講師 井上 文代	参加者 ①14組 28人	応募者 7組 14人
⑤11月5日(金)		⑤フードインストラクター 軽部 知美	②11組 22人	参加者 ①5組 10人
⑥12月3日(金)		⑥ヒップホップインストラクター 日座 芽久美 細谷 樹里	③9組 18人	②7組 14人
⑦12月17日(金)		⑦ほっとひといき夢らんど専属ボランティア ピアノ講師 井上 文代	④9組 18人	③5組 10人
令和4年		⑧親子遊び	⑧茨城女子短期大学保育科准教授 橋本 祥子	⑤10組 20人
⑧1月21日(金)			⑥8組 16人	(Bコース) 定員 15組 30人
			⑦13組 16人	応募者 7組 14人
			⑧13組 26人	参加者 ①5組 10人
				②4組 8人
				③6組 12人
				④5組 10人



イ 「ほっとひといき夢らんど」 パパといっしょ！

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
①6月12日(土) ②6月26日(土) ③7月10日(土)	(パート1) 2歳から3歳未満までの幼児とその父親を対象に、様々な講座を実施することで、子育て中の親同士が出会い、情報交換の場を作り、楽しみながら子育てできるよう支援する  ①親子遊び ②親子アート遊び ③親子ヒップホップ	①わかな保育園保育士・こども環境管理士 鯉淵 裕志 ②子どもアート講師 綿引 真宏 ③ヒップホップインストラクター 市毛 絵里子 朝井 久美子	市内在住2歳から3歳未満までの幼児とその父親  定員 15組 30人 応募者 23組 46人 参加者 ①10組 20人 ②13組 26人 ③13組 26人	—
①11月10日(水) ②11月24日(水) ③12月8日(水)	(パート2) 2歳から3歳未満までの幼児とその父親を対象に、様々な講座を実施することで、子育て中の親同士が出会い、情報交換の場を作り、楽しみながら子育てできるよう支援する  ①親子運動遊び ②親子ヒップホップ ③親子アート遊び	①わかな保育園保育士・こども環境管理士 鯉淵 裕志 ②ヒップホップインストラクター 日座 芽久美 細谷 樹里 ③子どもアート講師 綿引 真宏	市内在住2歳から3歳未満までの幼児とその父親  定員 10組 20人 応募者 7組 14人 参加者 ①5組 10人 ②5組 10人 ③6組 12人	—

<「ほっとひといき夢らんど」の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
465 千円 (報償費, 消耗品費)	307 千円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目的達成度</li> <li>・受講者アンケート</li> <li>・定員に対する応募人数, 参加人数</li> </ul>	B
<b>評価・課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほっとひといき夢らんど（主に母親が参加）は、毎回専門の講師に依頼し、受講者からの満足度が高い講座を提供してきたが、他課の類似事業や全市民センターにおける子育て広場の実施など親子の集いの場の充実により役目を終えたと考えられるので、今年度で終了とする。来年度は、別の形の家庭教育支援講座を計画する。</li> <li>・今年度、初めて開催した「パパといっしょ！」は、他課に父親向け講座の類似事業がなく、参加者アンケート結果でも要望が高かったため、継続していく。ただし、平日開催のパート2は応募人数が少なかったため、開催日等について検討する。</li> </ul>			

(7) 「あなたも師・達人制度」の活用促進

	登録者数 (人)	派遣依頼件数 (件)	派遣件数 (件)	派遣人数 (人)
令和3年度	299	13	5	5
令和2年度	291	4	3	3

(8) 育児ボランティア「えくぼ会」制度の利用促進

	登録者数 (人)	派遣件数 (件)	派遣人数 (人)	預かった子ども (人)
令和3年度	41	1	10	7
令和2年度	53	活動休止		

※今年度は11月1日から活動再開

育児ボランティア研修会の開催

月日	内容	講師	参加者	令和2年度
10月21日(木)	託児の現場で役立つ手指遊びとQ&A	わんぱーく・みと 保育士 檜村 知恵子 金澤 奈央	育児ボランティア 「えくぼ会」会員 24人	効果的な絵本の読み聞かせのポイントと絵本の選び方  育児ボランティア 「えくぼ会」会員 17人
令和4年 2月3日(木) 中止	普通救命講習Ⅲ	一般社団法人 水戸地区救急普及協会	育児ボランティア 「えくぼ会」会員	普通救命講習Ⅲ  育児ボランティア 「えくぼ会」会員 12人

**(9) 学習情報の提供**

- ア 水戸市ホームページ、みと好文カレッジホームページへの事業等の掲載
- イ みと好文カレッジ情報誌の発行

**(10) 学習相談事業の充実**

ア 相談者状況（件）

	行政	団体	個人	合計
令和3年度	12	5	37	54
令和2年度	6	2	21	29

イ 相談・情報提供状況（件）

	学習機会	施設	指導者	団体・グループ	教材（図書）	その他	合計
令和3年度	28	1	14	0	0	11	54
令和2年度	14	0	5	0	0	10	29

ウ 相談方法状況（件）

	電話	面談	F A X	メール	合計
令和3年度	49	1	0	4	54
令和2年度	26	3	0	0	29

**(11) 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進**

ア ソフトバンク株式会社及び株式会社NTTドコモとの連携事業

「はじめてのスマホ体験講座」の第1～4回、第7回を、総務省が実施している「デジタル活用推進事業」に参画しているソフトバンク株式会社の認定講師を活用して実施、第5～6回を株式会社NTTドコモの講師を活用して実施した。詳細は「2 全市的な生涯学習の推進 (5) ICT等の新しい技術を活用した講座・研修の開催 ウ はじめてのスマホ体験講座」を参照。

イ 明治安田生命保険相互会社との連携事業

市民センターへの支援として、「地元の『公民館』元気プロジェクト」を実施している明治安田生命保険相互会社の講師を活用した講座の開催を市民センターに提案した。本提案により、山根市民センター、石川市民センターが高齢者学級を開催した。

ウ 「課題解決チャレンジ事業」に係る実行委員会「チャレンジ委員会」への委員としての参加  
茨城県水戸生涯学習センターが設置する「チャレンジ委員会」に委員として参加した。事業実施の目的は、各地域や市町村の抱える様々な現代的・地域課題の解決に向けて、必要な人材の育成や関係団体との連携・ネットワーク構築等を行い、モデルとなる実践的な活動を行うことにある。

**(12) 水戸市訪問型家庭教育支援事業**

ア 水戸市訪問型家庭教育支援推進協議会の開催

協議会委員 6 人

開催回数	日時
2回(予定)	令和3年11月19日(金)午前10時～ 令和4年3月7日(月)午前10時～(予定)

イ 水戸市訪問型家庭教育支援員による家庭訪問等の実施

支援員 5 人

	ケース会議（回）	訪問世帯数（世帯）	訪問回数（回）
令和3年度	9	42	55
令和2年度	9	10	19

## ウ 広報活動

- (ア) 水戸市ホームページ掲載
- (イ) 保健所・子ども課・市民課・各出張所にチラシ配布依頼
- (ウ) 子育て支援総合ガイドブック掲載
- (エ) 幼稚園・保育所等にチラシ配布依頼
- (オ) 市立小学校等にチラシ配布依頼
- (カ) 市民センターにチラシ設置依頼
- (キ) 「広報みと」(5月15日号, 9月15日号)に記事掲載
- (ク) SNS(公式LINE, Twitter, Facebook)にて情報配信

## エ 対象者の掘り起し

- (ア) 市立幼稚園・認定こども園訪問
- (イ) 幼稚園合同説明会での事業案内実施

### <水戸市訪問型家庭教育支援事業 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
690 千円 (報償費等)	701 千円	・ 2 か年実施計画 令和5年度末 訪問件数目標値 40 世帯 ・ 事業目的達成度	A
広範なチラシ配布や訪問型家庭教育支援員を伴っての市立幼稚園訪問など広報を強化したことで、訪問件数を大幅に増やすことができた。			

### ※事業評価基準

評価	評価基準
A	目標を達成することができた。前年度に比べ、成果が向上した。
B	目標を達成することができた。前年度と比べ、成果は同程度の水準であった。
C	目標の達成に向け取組を進めたが、一部達成できなかった。

別紙  
第六期「さきがけ塾」理論編の内容等

回	開催日	内 容	講 師	参加者
13	4月14日(水)	チラシづくりに挑戦	生涯学習サポーター 見澤 淑恵	8人
14	4月28日(水) 中止	学習プログラムづくり③	ひと・まちねっとわーく 理事 高瀬 利博	—
15	5月12日(水) 中止	学習プログラムづくり④	生涯学習サポーター 綿引 均, 小平 文和	—
16	5月26日(水) 中止	受講者側に立って学ぶ 『紫芳の字手紙講習会』	紫芳の字手紙認定講師 寺門 忍	—
17	6月9日(水)	学習プログラムづくり⑤	ひと・まちねっとわーく 理事 高瀬 利博	10人
18	6月23日(水)	学習プログラムづくり⑥	生涯学習サポーター 綿引 均, 小平 文和	9人
補講	7月7日(水)	受講者側に立って学ぶ 『紫芳の字手紙講習会』	紫芳の字手紙認定講師 寺門 忍	7人
19	7月14日(水)	学習プログラムづくり⑦	ひと・まちねっとわーく 理事 高瀬 利博 生涯学習サポーター 綿引 均, 小平 文和	9人
20	7月28日(水)	ためして合点！プレゼンテーション	ひと・まちねっとわーく 理事 高瀬 利博	9人
21	8月4日(水)	アンケートづくりの実践	生涯学習サポーター 小平 文和	10人
22	8月25日(水) 中止	記念講演	弘道館主任研究員 小坏 のり子	—
補講	12月22日(水)	記念講演	弘道館主任研究員 小坏 のり子	10人

第七期「さきがけ塾」理論編の内容等

回	開催日	内 容	講 師	参加者
1	1月12日(水)	開講式 持続可能な社会に向けた まちづくり・ひとづくり①	茨城県生涯学習・社会教育 研究会 会長 長谷川 幸介	13人
2	1月26日(水)	ファシリテーションを 学ぼう	NPO法人 セカンドリーグ茨城 理事長 横須賀 聡子	13人
3	2月2日(水) 中止	ファシリテーターになろう		—
4	2月16日(水) 中止	魁のまち、水戸を目指して	水戸市政策企画課	—
5	3月9日(水) [予定]	まちづくりとボランティア 活動	茨城キリスト教大学 兼任講師 池田 幸也	
6	3月23日(水) [予定]	持続可能な社会に向けた まちづくり・ひとづくり②	茨城県生涯学習・社会教育 研究会 会長 長谷川 幸介	

## (2) 令和4年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標について

### 運 営 方 針

近年、人口減少社会や超高齢社会の到来をはじめ、都市化の進展、価値観の多様化、生活圏の拡大など、市民を取り巻く状況は大きく変化している。

こうした状況にあっても、市民が安心して暮らし、幸せを感じられる豊かな地域を形成していくためには、今後ますます地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進が必要となる。

市民センターにおいては、コロナ禍における感染症対策を徹底した上で、地域コミュニティ活動の拠点として、その継続や発展に向けた支援に努めるとともに、生涯学習活動の拠点として、その充実や成果を生かす環境づくりに努める。また、東日本大震災や令和元年東日本台風での経験を踏まえ、地域防災活動の拠点としての機能充実を図っていくものとする。

### 重 点 目 標

#### 1 地域コミュニティ活動の推進

##### (1) 地域コミュニティ活動の活性化

ア 地域自らが地域の将来像や課題を共有し、特色のある地域づくりや課題の解決を進めることができるよう、地域コミュニティプランの実現に向けた取組への支援を促進し、住みよいまちづくり推進協議会を中心とした自主的な活動を推進する。

イ 各種コミュニティ団体等の活動を支援するとともに、NPO等との連携を促進しながら、よりよい地域づくりに向けた情報の共有化を進めるなど、地域コミュニティ推進体制の充実、連携強化を図る。

ウ 町内会・自治会への参加意識や自治意識の高揚を図るため、地域団体や関係機関と連携強化を図り、地域コミュニティ活動内容を積極的に発信するとともに、地区会の基盤である町内会・自治会の加入率の向上に努める。特に水戸市住みよいまちづくり推進協議会との協働により、「みと町内会・自治会カード」事業の更なる魅力の向上を図る。

エ 市民自らが意欲を持って地域活動に参加できるよう、一人一役運動を進めるほか、人材育成のための研修会を通して、地域を支えるリーダーづくりを推進する。

##### (2) 地域コミュニティ活動環境の充実

市民センターにおける様々な活動環境の一層の充実に向け、施設の利用状況や地域の実情等にあわせたコミュニティルームの積極的な利用を促進するとともに、長寿命化型改修の実施及び施設の利用者数や周辺状況等を踏まえつつ狭あい駐車場の解消に努める。

##### (3) 地域防災活動との連携

災害発生時の初動対応については、地域における防災組織が重要な役割を担うものであることから、平常時より、地域での防災訓練への支援、地域における災害リスクや連絡体制の確認を行うなど、地域における防災組織との連携を図る。

## 2 生涯学習活動の推進

### (1) 学習機会の充実

生涯学習活動の拠点施設である市民センターにおいては、どのような状況下でも学びを止めることなく、「個人の要望」する学習による生きがいを進めるとともに、家庭教育への支援や青少年の健全育成、少子・高齢化への対応などの「社会の要請」に応じた現代的課題を取り扱った学習機会を提供する。

そのため、水戸市における生涯学習事業を総称した「みと弘道館大学」に位置付けた、一般教養講座や定期講座を開催するとともに、みと好文カレッジにおける事業を活用しながら、市民のライフスタイルに定着し、生涯にわたって学び続けることができるよう、学習機会の充実に努める。

#### ア 市民ニーズを捉えた学習機会の提供

市民の学習ニーズを把握し、健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、生涯学習のきっかけづくりを図るとともに、それぞれの世代に合った学習機会の提供に努める。

#### イ 現代的課題を取り扱った講座の開催

変化の激しい社会情勢に対応していくため、成人学級、高齢者学級等の講座に現代的課題を取り扱ったテーマを組み入れるなどの手法により、地域課題を主体的に捉える学習機会の充実に努める。特に、デジタル・ディバイド解消のため、高齢者等に向けたICTリテラシーを身につける講座の充実に努める。

また、地域団体と市民センターが一体となった協働事業を積極的に展開する。

#### ウ 家庭教育や子育てを支援する講座等の開催

家庭は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、思いやりや善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割があることから、家庭教育について考える機会を提供するため、学校等における家庭教育学級や家庭教育講演会を開催する。

また、未就園児の保護者が家庭教育について学び、各家庭が家庭教育に自主的に取り組むことができるよう支援するため、家庭教育強化事業を実施する。

### (2) 学習の成果を生かす環境づくり

生涯学習の成果がボランティア活動や地域づくりに生かせるよう、地域人材の発掘・育成を行い、地域の活性化や特色あるまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

#### ア 地域資源の活用推進

市内には、歴史的な資産や史跡をはじめ博物館、歴史館などの文化施設、学校や大学などの物的資源やそれぞれの施設に所属する職員などの人的資源があり、豊かな地域資源に恵まれている。このような地域にある資源を活用した事業を開催するとともに、生涯学習の振興に取り組む機関や団体との連携を図りながら、地域資源の有効活用を推進する。

#### イ 学習の成果を発表する場の創出

市民センターを会場に開催している講座の展示会や発表会など、生涯学習の成果を発表する場を創出することにより、学習者同士や参加者との交流を拡大させ、新たなネット



ワーク構築に努める。

ウ 学習の成果を地域活動に生かす仕組みづくり

生涯学習の成果をボランティア活動や地域活動に生かすことが、地域の活性化に大いに役立つものと期待されている。市民センターで学んだ市民が、その成果を地域コミュニティ活動につなげられるよう、人材の育成と活用に努める。

エ 事業評価に基づく事業の推進

市民センターの講座や事業に参加した市民が日常生活の中で生涯学習の成果をどのように生かし、また、地域の中でどれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。

市民センターにおいては、実施した講座や事業について自己評価を行うとともに、自己評価をもとに、運営審議会等第三者機関による検証を行い、効果的な事業運営を図る。

### (3) 家庭・地域・学校の連携の強化

家庭・地域・学校が目標や課題を共有し、それぞれが連携して対応策について取り組む体制を構築し、地域社会全体の教育力の向上を図ることができるよう、市民センターにおいては、それぞれをつなぎ結ぶ地域拠点施設としての機能充実に努める。

ア 次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む

地域、学校と連携を図りながら、様々な形で異なる世代での交流や大人と接する事業など、子どもたちが地域活動に参加する場を提供し、地域社会全体で次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む活動の推進に努める。

イ 社会全体で支える家庭教育

子どもたちが健全に成長していくためには、良好な家庭環境や社会環境を整える必要がある。そのために、家庭の教育力の向上だけでなく、地域の人的資源を子育て支援事業や学校活動支援事業に活用し、家庭教育を地域社会全体で支える仕組みづくりに努める。

### (3) 令和4年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策（案）について

#### 1 運営方針

生涯学習都市宣言を踏まえ、水戸市生涯学習推進基本計画（第4次）に基づく施策を推進するため、全市的な生涯学習の総称である「みと弘道館大学」の開催を通して、どのような状況下でも学びを止めることなく、少子・高齢化、高度情報化、地域社会における連帯感の欠如や家庭の教育力の低下等の現代的課題を解決するための学習機会を提供するとともに、学習成果を地域活動やまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

また、市民の生涯学習活動の振興を図るため、社会教育活動における基礎的なことからより専門的・実践的な知識や技術について、市民センター職員の力量を高める研修の機会を充実させるとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、時代の新たな課題に対応した学習プログラムの開発を進めるなど、市民センターへの支援・指導を強化する。

#### 2 主要施策

##### (1) 市民センターへの支援・指導

###### ア 東湖塾の開催

市民センター職員に、生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や家庭教育の支援の強化など、専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会を開催する。

さらに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、現代的課題解決に向けた学習プログラムを研究・開発し、時代に合った新しい講座を先進的な市民センター講座として提案する。

- (ア) 新任職員研修（集合研修，訪問研修）
- (イ) 全体研修（集合研修，ブロック研修，訪問研修）
- (ウ) 学習プログラム作成研修（ブロック研修，訪問研修）

###### イ 好文塾の開催

東湖塾の学習プログラム作成研修等において研究・開発された現代的課題を取り扱った企画講座が市民センター事業として根付くよう、市民センターとみと好文カレッジの共同事業として位置づけ、市民センターにおける開催を支援する。

- (ア) 市民センター職員（ブロック単位）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催
- (イ) 市民センター職員（単独）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催

###### ウ 市民ニーズに対応した学習機会の提供

市民の学習ニーズの把握に努め、「個人の要望」や「社会の要請」に応じた学習をバランス良く提供できるよう市民センターの支援を行う。

- (ア) 市民ニーズを捉えた学習機会の提供
- (イ) 市民センター事業の現状と課題の調査

## エ 事業評価の推進

講座や事業に参加した市民が日常生活の中で学習の成果をどのように生かしているのか、また、地域の中でどれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。そのため、市民センターにおいては、実施した講座や事業の自己評価を行うとともに、市民センター運営審議会等による自己評価に基づいた第三者評価を行い、より効果的な事業運営を進められるよう事業評価を推進する。

また、みと好文カレッジ等による事業評価制度の手法について検討を進める。

- (ア) 市民センターによる自己評価の実施
- (イ) 市民センター運営審議会委員による第三者評価の実施
- (ウ) みと好文カレッジによる事業評価制度の導入

## (2) 全市的な生涯学習の推進

### ア みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題、いわゆる現代的課題の解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果がまちづくりや人づくりに生かされるよう内容の充実を図る。

また、時代に合った講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による先進的な学習プログラムを市民に提供する。

- (ア) 茨城しぐさ
- (イ) 水戸市生涯学習サポーター協働企画講座

### イ 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、親としての役割や子どもとのコミュニケーションの取り方を考え、見つめ直す機会を提供する。

- (ア) 家庭教育講座
- (イ) 家庭教育出前講座

### ウ 生涯学習サポーターチャレンジ講座「さきがけ塾」の開催

生涯学習活動を通し、市民と行政とのまちづくりを進めるため、市民生活を豊かにする学習プログラムの企画・実施に参画する人材（水戸市生涯学習サポーター）を育成する。

## エ 「水戸市生涯学習サポーター」活動の推進

市民と行政との協働企画講座の企画・実施への参画をはじめ、「さきがけ塾」での学習成果を生かした活動を推進する。

### オ パイロット事業の開発・研究

現代社会の課題や人づくりをテーマとしたもの、ICT等の新しい技術を活用した講座など、先進的な講座を開発・研究し、開発した講座を各市民センター等の社会教育施設や地域団体でも実施できるよう支援する。

### カ ほっとひといき夢らんどの開催

家庭教育支援事業の一環として、2歳から3歳未満までの幼児とその父親を対象に、親子で活動する場と親同士、運営ボランティアとの情報交換の場を提供することによって、楽しみながら子育てができるよう支援する。

## **キ 「あなたも師・達人制度」の活用促進**

「あなたも師・達人制度」の登録指導者の募集や活用を広報「みと」やホームページ、情報誌などの各種広報媒体により周知を図るとともに、市民センター等の社会教育施設やPTA、ボランティア団体、NPO等が主催する講座や研修会の講師として積極的に紹介し、登録指導者の有効活用を促進する。

## **ク 育児ボランティア制度の活用促進**

子育て中の保護者が生涯学習活動に参加できるよう、講座開催中に別室で子どもを預かる「育児ボランティア制度」の活用促進と登録ボランティアの拡充を図るため、市民センター等の社会教育施設や社会教育関係団体に積極的に紹介し、制度の有効活用を促進する。

## **ケ 学習情報の提供の充実**

生涯学習活動を推進するため、みと好文カレッジ事業等を掲載した生涯学習情報誌の発行や新しい情報のホームページへの掲載など、生涯学習活動を積極的にPRする。

## **コ 学習相談事業の充実**

市民やボランティア団体等からの生涯学習相談に対し、適切で役立つ助言ができるよう、各種生涯学習情報の収集と整理を行う。

## **サ 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進**

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有化するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図る。

## **シ 水戸市訪問型家庭教育支援事業の拡充**

地域人材を活用した家庭教育支援員を派遣し、家庭でのしつけなどに悩みを持つ保護者への個別訪問等の拡充を図る。